



梅櫻日記

僧
600
151



借
600
巻 151



終極日記
この日記は、平賀源一の日記をまとめたものである。平賀源一は、江戸時代中期の蘭学博士、発明家、実業家である。この日記には、彼の学問的探求や発明の過程、そして社会活動に関する詳細な記録が記述されている。日記の体裁は、平賀源一自身の手書きによるものであり、その筆跡や用字には個人の特色が現れている。また、日記には当時の蘭学や科学に関する貴重な情報が含まれており、研究資料として高い価値を有している。



梅楼日記



おのほひくもれなまはらもいまま年頃のまことせれあわし
こいこのまじをこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい
うらみそとよとみひよのくせありそれにはおみよらん
あひかりけしおしむこをりくるるこいこい又例のくせおみ
かこくそく月々淋の梅をこめ春日奈難波の聖靈舎よ
り吉柱の花なるともえんとおみひよらん二月のあひ
そのあひの暁夜ふりくおきい傍るまよらん雨ふりあひ
なこりけくもして風いとまよらんかく天守よりおまよらん
かしまよらんこのまひありとこいけらまよらんすくまであ町と

と船を船江とすま百々川とつらふふへの面ふらまより
あれハ川音名のこくくせえうう隊本久米市場庄とすま
て三渡のこくくせえうう隊本久米市場庄とすま
くおわゆ

おもひひ川こくくせえうう隊本久米市場庄とすま
袖北船風月布うてあわぬあ材よりたよ入て小村
新屋庄とすま川原木造の派とつらふふへを川の川よ
こくくせえうう隊本久米市場庄とすま久居宿小村
つらふふへを川よ二里つらふふへを川よ殿の館あり



六の里とすま右のこくくせえうう隊本久米市場庄とすま
大木村とすまとすま波柱村とすま山道よの白坂ハなま
いとくくせえうう隊本久米市場庄とすま家一軒あり山道とすま
多野田村とすまよつらふふへを川よ三軒茶屋とすま入て
ものかこくくせえうう隊本久米市場庄とすま足坂村とすま
ふつらふふへを川よ小梅の一本咲くつらふふへを川よ
道いそく旅のなりひのありはなほとくくせえうう隊本久米市場庄とすま
里の梅枝ふの材とすまて川のなりふつらふふへを川よ
あつらふふへを川よと見あつらふふへを川よ栗原村とすま
村よつらふふへを川よと見あつらふふへを川よ長野宿ふつらふ

久居より四里ありこのとむより山入休所村と云ふと云ふ
道の右より河船大明神といふありまた殿畑村といふとすこ
犬塚村といふより犬塚といふ六犬と云ふありありあり
うへに地藏菩薩のあせむる堂のあるよりいふありありあり
犬といふ狩人のいふありありありありありありありあり
なるいふいふとせよいふいふいふ物語のいふいふいふいふ
この村の家六軒ありありありありありありありありあり
始くやけなるなりとて焼けたることありありありありあり
あつてもこのいふいふの地藏尊のたつ南にさなりあり西北の
うへに一夜のうらふいふいふのうらふいふと人のいふいふいふいふ



石の像なりねいといふいふいふいふいふいふいふいふいふ
日ふこの大災ありありありありありありありありありあり
夕るなりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
坂路よりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
すいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
あなといふ伊賀の國よりすいふいふいふいふいふいふいふ
町なといふ村といふいふ平松宿といふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
郡河波神社といふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

こころもゆきて大佛村よりこゝのひらき大佛ありて五寶山
新大佛寺といひ所小あはせていさよしくとて寺とて中堂
小僧意多といふ額よりて中小大佛おとす木像とて
いくかやさぬりこは後乗坊ならぬ盧舎那佛の伊首の
おちこちをつくりし時とのこゝろみよつくりある伊像とてや
こゝろのへくいとあやしく見ゆゆはく小上堂とてその後乗坊の
像とおとる堂もあり中堂のうらゝの岩屋又不動明王の
伊像とてつはけるもふかく見ゆその外護摩堂鐘樓あり
ありとの鐘樓のうらゝはく又何かかん心えくこゝろあり
ある石もありこゝろの後乗坊の像は日てりのすゝとて雨

とひて燈明の火とてゆゑにそのとりのこゝろのこゝろ
ふらふらとてあゝりの里人といふとありとの火とてゆゑ
付道とてつふとてつゝもいふとていふとてその所とて
あゝりといふとてゆゑに街道とて川つゝとてひて
下河波村川北村中村るとしてとて山田宿といふ平松より
三里なり宿の入口は植木天王とて伊の伊社といふとて
上野ま傳ゆくへりといふとて日らにりといふ宿の綿やあゝ
かゝとてその家とてぬらなるすゝはとて目とてあゝ
雨風といふとて音下といふ月とて木のこゝろにひやとて
風あゝきこゝろのあやとてぬらといふとてあゝとて

ものしよとながうらめしや

六日空のくもりと雨やみぬぬのちのち宿りとして山田
川板をわらふ朝風とさし 赤泥村とつらう川色
よそひてゆくききう荒木村とよよ武又見えたる阿野
須知荒木神社おとす西明寺村とよとす山田郡
二里とつよ上庄宿よとるうの飯堂何れ殿の城あつて
つくさ所この宿を月瀬のうふゆく業内ませうら
駕籠よのちのち余野村とつよのありとさうさ
昔花垣庄ともひとらうそけ石集よその花垣庄と
つよ急つてつとくぬ吉治のれうけく文あね

ひものとうねていおのふまのひのうふゆくにたつと
やれくあうらめしや

立よらんよのちおひわらまもゆさつつき花
垣の里とてゆくたこの上庄に宿をおとねるあうら田
とつとらうたれくあ入たのらまとあうとさうり入て
木興村とつよをすき川とわら朝屋村高芝村とつよを
とつと大庄木村とつよとつとるうのうさ里とて上庄より一里と
この村の入ふふま墓ある何人の墓なつむ材をとあれて
あつと神の社もあつまたそのあうらあうらぬ山路
ふくふあうらと谷とつとつて名のこつとつとつとた庄

本より一里をて長谷村あり、このあたりまで月々瀬あり、
人々わらわら梅の枝とりもちよふゆきあひつれ、盛のほと
とあつぬふいとよこあなるうし、此のうれい

見る花ふさりの花と先くきてたつそくあつ、うれい
一枝このあつりとゆきわと風いとくくふきつていささ
雪もうちぬるいとくむ

こく梅の花さきこしてゆきくふうちふ雪も何う
いとくむや、ゆきつてたの石ふ白檜明神の神社とまうい
あつ、まうていと本あつ、大社ありとのあつ、うり坂をのり
白檜村とふとてまき長谷村より一里とつよ石赤村とふと

いこふこくハ伊賀と大和との國境まで松の一本あつ、そのある
しなり、このあつ、まうとこく、ふ梅ありや、ゆきつて尾山
のこく見とそめ、まう梅もつ、見とそめとわく、うち見とまう
まあ、あつ、まう、石赤村より一里ハ、すこく、ちうくして
その尾山村より、まう、まう、傳の及ハ、早馬の常、まう、上陸のうこ
ふ、まう、あつ、まう、まう、尾山村の伝、ゆき、ふ
人花ちうて、梅の葉内、すまう、まう、まう、れとあ、まう、れ、
まう、まう、上野の人の葉内、まう、まう、まう、家、まう、まう、れ、
ハ、先武を信とつ、人の家、まう、まう、まう、まう、まう、まう、まう、
く、山の尾上、まう、家とあ、まう、まう、まう、まう、まう、まう、まう、
ハ、

谷を梅おかしこの家よ、み所の梅見ふさるる遠近人の
の書画とくしめ詩哥祇造のありいとかきつけぬ帖ありを
とりつてわねよもつとそとつふこの帖いこの家のまの
風流よ、あつたの村よりこの帖とあつくり居て遠近人ふ
か、下なるりしそこの帖と見りてゆくよを遠人のうさつ々
あふ、いりすうさりもなけまといよとまるふも見えす、ねと
わりしとさひりよのいひのわらうまおわくして、この梅とより
そへて見ふし一人のかくあることおとちまね、この帖、詩祇造
おわくして画とさうさうもまねよ、見えぬ、あつくりさうさ
ある、いまれも見え文そのゆゑ、いつと、おしよ、今の世のあ人に

みやひやうねふいとすくなくして梅はさすよめつる人も
わねと梅ありとちまねれうして中ふ、梅のあつたさう
あるつひおとすうさりものもあは、ある、い、あつたあ人の
らまて、い、あつたあ人のみやひつるものなき、あつたあ人の
そ、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の
の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の
あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の
とい、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の
大きなる川の見えとめ、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の
か、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の、い、あつたあ人の

とふらり梅の中とあるはらり梅のかりありてうさも
ゆくさねも梅の本なる文とつどふありそのあひこの坂あ
いとけしうあやふけきく梅のおりあきふんうつうてさは
かりもあもる文あん一目ふかしの所もあうこの吉野と
うらやみてあれふかといやうさ名をもつてうさむさねと
名のこしうかすうきりもねと梅のうく一目ふ見おろされてた
くひもくあさありなり長引村といふもあのおらりありこ
もも名のこしうさき尾の上とある村もてこの二村の間た
梅の木もうらりあり月々瀬といふはひひの山のうらねる里ふ
てそふもあるうく梅おりその月々瀬ふゆくまは

りー船ありてその船又のふその巻もひひのこしあも
梅おり

咲りすうめり梅はわし船いとけやいんあて
しとやいむひひのさの梅の中と船ありありて又も梅
の中と四五町のかりとるとあといと大さ船の宮ありてその
ひひ光あきハそれいひてはこひひくこいあのおらりあもの
くはるるあるれうしそはこむ借たりありあきさうら
ねてきくしうはうの宿りそのゆてもちきくさきりそ
とくひはく見わうたるさままことといんさか尾ふ水
引の梅のひひ見わうそのみふあ文今のかりとる下

のうらむるわさうたりあさ梅もひとめ又見あろさけてよあところの
見わさしや梅のあけさあさうりあさじよの中を渡舟のうらま
又い梅はあえまふとさうりし里のわらやの見えさるをく繪よけ
るのうらさの山水れさささて梅の本立れあけさハ尾山
長引のうらさささこの月々瀬うりひとあよ見さるさまもさるふ
まさうりうらあおのつうふ月々瀬うらふ名の世よあうたなるし
かさあわさうりまてあさまじいあうりし奥るくんあさうりのせさや
ささうらまてあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
もろさうりの経路さふ山もあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
瀬の梅

遠近の人も見よさて月々瀬のうらり梅もささ
さうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
花の名もさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
さあうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
月々瀬のうらりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
もろの梅
あかあけさ花とつあうり言のあもほうふあさうり梅の
さうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
春の夜の月々瀬さうりあさうりあさうりあさうりあさうりあさうり
ものさあけ

梅さく吉野がくねとくくく見てもゆめ月

瀬の梅

あくく伝伏見と梅の名とあつひいひい
きりきり

あやさくこあこくねあ花盛ひとくねぬ尾山

月を

あはまふ又あひあは梅そのをまま又うひてみる
うもくね

なる川の里の名とくくあつてくくあつてくくあつてくく
へくねあ

ふあつなま盛と見せて月うね又ひまのひうりくくはる
うあその

あしあさうりて見れば影あつ伝心とくく月う
瀬のうめ

うるねういさすのけあううあまふ見てもあまの月う
瀬の梅なとりのひの傳えれすくこの梅のううううう
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花くくく梅の花を花のめてくくくのめ傳くうう入ゆ
いひつきくくくく花の咲のさうりくくくくくくくくくく

ついでにさきあつておまへ人ともあはれなるていどお
人そつて人おれの人おふ人のあそぶをうへや梅の盛ち
風さむく香る人うりて人みおもひさむくみ冬より
いまこの傳文め傳もあす人ともあつてをみつ大和の玉の
山島の尾山長引ぬる玉のこのうまやうき月うぬり
梅におわけとわりくまのおゆひのゆきひすひれあけの
人もとと見るおのひあぬどかの実のあか糖してうへ
やー風いふくもうへえやー香るふるもそつて梅の
盛と見むくも東枝腰よりぬて残るぬふ菱さつ
おほこの尾のまををうりていゆきこれいあひひふ

まきも梅園のやまはよる中平かきくく咲あみさつて
尾の上よ咲る花は大雪のふりうも川の色より
咲る花は五百重波うせらるなせり中よあつるこいれ
川流のみをええ文いひつさゆむく梅の梅を
おそり梅のおまおれく又とちのさきもふのたなもゆき
見よる人のさきりふおれりて文やうく五人お人あるさうり
なり
さうりあもむきつて人の見よるね花のさき月うせ
の梅
うりのむ人も見えぬあをのさきさうり月うせのさきふ

しそあま

色香のわかれも梅のあはれにむねよから人のあまこ
見えゆるや時うつりてふの里ふい人やすあもあまこ
さけいあむとすこそ

花さうり見すてゆいわきあうこつさねさ月ウ
嫩の梅さそこの月ウ嫩の梅は上りもなるこくもこふふた
ひあそ所なきとちささあまをせひさ人なうりしとつこあ
人よ也田宮仲宣とつ人のあうらうさ東隣をこつ書ふこあ
梅のこをみみほめさるもあうさうさうさああう
この書は享和元年とつこの四月よあうりさうさああう

おもむき序よ見えうりそのち文政三年とつこの春山田れ
山口ふうてふ詩つくる人々見えゆさるる花ありこは保
紫の國人うりあみのたうりふさうて見えゆさうさうさ
けふうさうりうりされはこむ世人のあうさあやうさるるは
むけよちうさ代のこくありこれに終あまねくはあま人すこあ
うさてこれあまも月ウをさたつねてはあまうさう尾山長
引とつし信はとみふさうあまねくあひむさくけりやじり
荒後の五人貝糸のをちいあまねくまくとあまうりて記行
たうもあうそのあまさうさうさうさうさうさうさうさ
このむくせあるのたああはいとあうりさうさうさうさうさ

月ヶ嶽のふゆのこころあはれ傳すくさねあるそとにそとさきさき
そのあはれ梅のおわくはいつよりいふそとさきさき梅の
をちふいんせまへそとさきさき梅の盛れ
かといすうわらういあそとさきさき東嶺のふゆのこころあ
彼嶽の中の日より一日二日すくさねありそとさきさき梅の
この梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
あはれいあはれそとさきさき梅のふゆのこころあはれ
さきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
いふそとさきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
こといふそとさきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ

嶽と伴の國のこころあはれ人あはれ尾山長引ハ大和の國
山邊郡を月ヶ嶽ハ添上郡なりそと梅のふゆのこころあ
はれいあはれそとさきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
梅村よ入その村をさきさき山路ふゆのこころあはれ梅の盛れ
あはれ一人も梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
石のふゆのこころあはれ梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
ひあきさきさきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
山路のふゆのこころあはれ梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
そとさきさきさき梅のふゆのこころあはれ梅の盛れ
あり

月々漱とわするころうていなりめもんさうつすころの
うめそれこの村の産神の社の森の木よいと大さぬる志めと
かけてそのあふ袖織るありうたる本とつけてとまふ
あさひとこりちるありいとあやしくして里人よとへ
勘定しめとつひてめちとすも年々のなうさうなりとを
又山とこえん北野西村とつやうつるこのむらも梅あり月々
瀬より二里あまりうそ大橋村とつやうつり日とれんふあり
しる人やらす家とあつぬるよなりとひさせぬと商人と
やとる家ありとつこの家とつや家とあやしめは家
あやしくむらふふえんねいゆとさよ入屋とす家やわると

とへ奈良まその間いもりしとさ宿りもなましりしつよ
あひてこの家よやとりぬハ清兵衛とつよりの家うそいと
むらうちひさしとつんさかゆゆふまきこしめせと
すむかと見れ青菜とさつらつと真のりしととらんあや
とてしとあはせつるそあちひもさうとあやしく推の祭
いりる信もらさうとむいおまふらうりあやしくなまさかあり
しとらねすらわと久りまて家内のものよかこちとさけハ
くの隣村のあふしと厄祝しそとあね吸物とせつ
しとそのもてあのまめしとたふかく酒とすくしと
あかめつとあかおしとくあひあだしとらそとめんまこよ

いとあやしくおもはるるゆゆけよつとる墓のいとしつけ
なるふとの隣村なりとてある山とくねとていふねと
して吸物とすものとなつていふ心おしとるり
けよつと山里まともそのまうりのおこねとていひけ
ある世なりとるいとものなこのちうとていひつていふま
よるれりのひさうつとていふ

七日朝とて宿りとの傳てやうて山道ふらる松尾村とて山里
とすまゝとてゆけは室はとて山里右のまゝ見ゆ猶ゆとて
水間村とてまゝとて大橋より一里ありこの村より坂との不
りて峠よりこれ伊駒山とて田山とて見えとめとて水間より

みて皆掛村とてまゝとて東田原の御のちうとて村の入口より
半町をり北は陵ありいとわとて睦道とつてひてこの陵のゆふ
ゆとて見ゆふ別れとすものもたてられこれいとまゝとて文字
よめとて山つとていと大さやうとて上は木とてものやとておひ
とらつとてのめりとて竹垣とゆひめとてこの陵は下ふらとて
小田原東陵 平城宮御宇高詔天皇
在大和国添上郡 と見えとて陵とてうねては音ふ
きとていととてこのとて所ありとてまゝとていふとて
春もえとてねとてこの街道のうとてはとてわとてむとて
ひうけり死とてこの村とてものあくらひつとてのせ村とて山村
とてふ山里とてすま石切峠とてまゝとていふ名もとて

てつらりたる燈籠とらる家切なり。こゝまで番掛より申
あまうりありこゝのむくすとすこしてすこしゆゑ大和の玉中目の下
小見えて葛城山とす。其の畝火耳あり。三輪山ありの見え
あるはちる人よあへらんやうそそいそあつてはれり。坂路と
くくり少くくりにちのえとらる所とす。これ春日山とす。こ
りてそとらるこゝ春日所社ちうさありありありのわたり
かり帝社弁才天社あり。ちうさあり。ちうさあり。社宣所とす。すき
様沢の池のわたり。ねる釜やけり。とす。ものゝ家よやとらとら
いまこ年の別す。くくりわとら。くくつて未の刻す。くくりわとら。くくり
名とらき。薪の能く。まら。う。なま。は。を。見。よ。の。せん。と。す。ゆ

道より大宮人よゆきあひさり。こゝよりひつああまよりて都
より鳥丸殿柳原殿の来居よりつれくあるまら。あああり
見あり。さ。ま。さ。り。様。法。の。池。の。わ。た。り。よ。こ。ひ。て。真。の。あ。あ
さ。ほ。と。い。の。と。や。ふ。見。居。り。ま。ま。所。の。つ。つ。と。優。み。あ。ひ。つ。り
い。う。人。の。な。ら。る。都。も。お。も。わ。る。そ。大。宮。人。の。袖。ゆ。う。な
り。こ。の。薪。の。能。い。南。大。門。の。ま。へ。よ。そ。と。く。く。二。月。の。ま。ま。り
て。七。日。の。間。あ。あ。り。り。ま。ら。る。ま。ま。い。ひ。つ。く。ま。ま。さ。ゆ。ひ。ま。ら
南。大。門。の。石。階。の。う。へ。に。後。の。む。れ。る。ま。ま。そ。つ。と。こ。と。非。ち
黒。き。衣。よ。太。口。と。い。つ。め。く。と。さ。お。ゆ。て。い。志。あ。き。く。さ。つ。て。つ。こ
て。う。り。も。下。よ。居。る。こ。ゝ。か。く。く。め。り。後。ま。て。ま。つ。と。み。中。の。い

ちあき衣さうらもあつ又中二年老るすら下又あつて
居るもわれともおりのあつてあ右のうへあつ小居るさ
またり右のうへはつおせんどの坊とて左徒の下官あり白衣
小ニ腰さうて居あひつり左小その又下官あり仕下り
烏帽子洋衣とて居あひつりその居あひつる中そとの
舞とさうおつさうのりハ世の常のさう山つりして正面へつる
き猿樂圖をとらんふさうのりハつさうも正面のさうあ
ちとつとあつさうのりハ居さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

うさうひもあ。あそつわれハ右のうへおる芝生ふさうさうのり
うせて見んとすハさうさうのうちと入るさうさうさうさうさう
さうさうのりおる左徒のさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

をとい申の別すくるやとあるる名ういおふ薪とあるとせり
こハ石階の下まで右右までいとおひつてくあくなれハ
日のくまふあうひてそのたのあうことひるのくしそひ
ものく又笛鼓のくうくうひつてくる所なれはる
ことなるといとあふううらんをうつむおふもくうりふハ
あえうく又芝生はうく足拍子音などもあええられハ
だあうぬくちのせうもて所のくま又いそのくうあせうとい
むくねく風流うて又あひるさんものくうりくれすくやと
その事さうこれうりすく春日社ふうつこハくの所祭
とんんくううりもくこの所祭ハ二月の上の申の日と霜

月の上の申の日と年ふ二ふおこあう所祭うてさきよん
ることく京より年ふ二度勅使あり申の日の所祭なると
世ふハ申祭といへり神前よりくやと勅使すみるひてその
行事もくまわりこハ神の所祭なる林檎リンゴのなとくふて
おふから勅使ハ黒袍クロロ白代ハ赤袍アカロうて宣命とくみるふ
ことあり社人うちハ神供造酒とつてく神前又といひふ
ことけりその神供とめせられるれるものさ海いとくふとある
つくりさまうてみゆひうりゆまのいうさふはすさまもぬく指の
穂とめられうり神前のこととくくさるる廻廊又いりて
勅使又御食膳のことありものうちゆふうとくさるる

あまてそことあがりまふたれつを跋あつて行車のおらりて
やうそいと大きなる鉄炮の音するふまうてゐる人も皆おとあ
まぬこはり車もそゝるもろしありていふはつらうまぬ
こゝそくし世ふ霜月の所祭れをといみくくしとそい
若宮の所祭りてむししりものうもんも音もみまゐるふ
の所祭りと霜月の申の日のあうてあまの所祭のことふい
あつて

まひくよ所末ま^{かえ}て藤うけらなりき代あぬ所
祭り那

八日うへ二月堂の松明とくももんへりしと薪乃能

おそくそくそく松明の行車いそそる後なりしとこい
いその松明のうももんひるは薪の能もま一日んひとあひ
居るふ朝とくしり雨うつて薪の能もふたうさうあ
目一日しつうふらんもさうさうの松明のことも心のこり
なうももわねくゆくことこのいそるれ先大坂のくこい
おもひつりく山道もわれ駕籠よのるまうゆきそりま
り左のくふ法花寺村の陵見とくしこは武よ奈保山東陵
平城官御宇元明天皇
在大和国添上郡
たうとつあつてふ京大坂郡山あまゆく唐のちま
ありこのまこととてとてとてゆけはたは宝葉山陵あり

てゆく所の刻この後の比のつみのくくこの式又菅原伏見

東陵 纏向珠城宮御宇垂仁天皇在大和国添下郡 と見ゆる後ありこの後とささつ

見しをりい今すこし木ありりい木まうさくちうねを
いづよと里人よとハちうさくあ本とさりりて根をくま

又大さねるハ格をくまつるを後とさく里人もうこれ

そあつちのあつくる秋あはさすもちあをさうう
なまや田畑のことふつさていりりりもちあうり

おあやの制れも本とさることはいまあられうをめ

ことするハいとあさくしうことふそありく宝業塚村
とあをすさ五条村といふいづるこハ昔の五条のあうり

ことそすてこあありの村の名ハ九条とそ名もこり

くのこれりとつりけふもあさか船のなうりあり赤坂村徳五

村とつとすさ砂奈屋といふうり尾りけうり一里あり

うふも中地内越といふよゆくとらうり峠越といふよゆくと

のたのちまこあうてつまも大坂よゆとわねいりり

峠のうふふこしてあ本村道分村かとすここの道分も

ならずと郡山よゆとたのちまこあうこああうり山道まで

室木小瀬萩系後尾西畑といふ山ととすさ坂路を

のりるふハ雨うりて駕籠あはるねめものこれこあこれ

あふの月るもねとたのこまをもちうりこんここのうり

とそものなれぬものいふまゝさうのそまてかきかきくとのふ
とひてうまうまなるれハ所のあつひもあつぬハ一のりうゆ
山みちハことふるあやましく山風もましくあましく船くまき
いまうまうまのり

あまこしひるあまうまの峠りてうまうまのり
みちのりりつうあまうまのり則くうり峠りて家居あり
砂茶屋ありこれまて一里なりうまうまのりひつて坂路
とくまのりはとあまうまのりひつてうまうまのりひつて
うまうまのり内とまうま大坂のりうまうまひとめふ見あまうま
いとんまうまのりちうまうまのりうまうま大坂の天保山とまうま

見たりこハ川さうまうまのりてまの砂とまうまのり
すかりち山のことくなりうまうま梅とまうまのりあまうまのり
はるなりとまうまあやまけりうまうまのりもあまうま天保とまうま
名とまうまのりあまうまのりひつてあまうまのり
うまうまのりあまうまのり豊浦とまうまのり河内國このじり
一町うまうまのりあまうまのり入て枚園神社まうまのり川このり
枚園神社と見たりまうまのりみねのり文ゆゑりもまうまのり
なまうまのりあまうまのりなまうまのり額田村とまうまのり
水走村とまうまのり川とわたり松原宿ふりまうまのり峠り五町
すこしゆまて美江村とまうまのり仲村大明神とまうまのり

おろしき道のくさばふ島居あてりこいともねさるの病
とまのりやふ神とくしり式若仲村神社と見てもるこ
所社のことある一新家所厨とふ村々とする松原より
一里半より高井田村とふより又半道ゆき海に村と
いふよりこれらハ津の國より十三峠のくさよりなるたゆま
り今里本庄中道とふ村とふと玉造口といふより大坂
ふへて道頓堀あるをやけしとふものあやしくぬ
九日くふ日一雨の芝居見ものす傾城兒童洲といふ狂
言より役者も老あるすちとふりなれはをさふとく一の
狂もねくつくおのちとく狂言のすちとつこれのことより

つりてすちとつりて艶競石川深るといふ狂言とも中
よりませされいそゆの總のことこハ中村歌右衛門といふ役者
ちりさくちにおのつ藝よほりてそのあまり又狂言をもつり
うらりうらり藝ハいうも上より又あつひあつりうらり
そのかもて狂言とつりうらりいとうこもいこやささして
あかおりの狂言うらるとほめのく人もあつり見ゆまハ
めくることハ口つらみ居るや今のよのこあつあつむ
十日くハ中の芝居とルものあつハ今とさうりの若人より
ねまハいと花やうそ角おハよねくまさうりつる人朝
あつさうりお屋みりくより狂言ハ姫競双葉繪ま紙

とて小栗判官とて人のことをめぐるなりといふ小栗判官車
街道とて津陽理とつらういふとていとありては
うりあみみねとてふはあはれとねとねと夕暮といと花と
めまじりてうりある中ふはりのあはれあることまじりて
めまじりてうりある中ふはりのあはれあることまじりて
めまじりてうりある中ふはりのあはれあることまじりて

十一日大坂とあちて系又ゆうんとするつて又某面の隣と
見んとすねとて宿りとい傳て天満のうらゆき天満宮と
まう川津屋の梅といわさうのうらうりてあはれ
くあるはあまきるとりてふとありてく咲より

東風ふきくむの春とて又又わすま又とて

かきの橋大坂の町と出に船まで南長柄北長柄とてつと
よとき船わたりわたりて中津川のわたりとてわたり昔の
長柄の橋もこのあはれありてむとあもむて

よとわたりてわたりてあえそとてねもあはれとてふ
けし文をなかりてふくは名あつたててあはれとてふ
なりすうゆけは築碁とてふとてそ八幡の所社おとて
こいやくて川のつみくもあつてみりたのうらゆき及よて
あまゆけは宗祿寺馬場といふといひらき松系といつ川馬
居りて天王の所社おとてまた又宗祿寺といふ寺といつ
この馬場とてむりて正徳のうら歌討のありてといふ人

のふくしむるもあつてこれらハかゝる傳の人のふくしむる所あり
のふくしむる村とつとてすま十八條村とつとてすまらふ瀧より一里く
それよりをぎねの坂とつとてわらうら^チ曾^ツ子^コ村とつとてすまきて
猪尾と箕面ふゆ道のちまこあり長興寺村とつとてすまらふ
のうふわわれて梅井谷とつとてすまこの村もたのちまこ
ありと右よわわれて梅村とつとてすまらふこのあつてこのふ
梅そのちりり

名うらふふささのとうやうわむいふれもえぬぬ梅
の花その平尾村とつとてすまらふここの箕面ふゆ道とつとてすま
よそ十八條村とつとてすまらふ一の鳥居のうらふすまらふ

きとらふ又聖天堂ありとの多居と入谷川のそらを
わらふ本の欄干ありてせとたまらふ山のあつてすまらふひらき
すうし坂とつとて門とつとて入観音堂あり行者堂とつとて
ありて本社ハ赤天の所社ハ寺の名ハ瀧安寺とつとてすま
寺もそ僧坊ありてすまてこのあつて楓の本とありてめく
みそめらるるあ祭の緑いとありてあり

あふらふ秋のあつてむみのもあつてひらきとつとて
みそねらうら門とつとて傳て山川よそひ十二町とつとてすま
山路とつとてひらの瀧あり前ハ瀧見堂ありて中又右動
明王ありてすまその瀧のむとふらうてそのあつてあつてあつて

あつさハおつ登十五六丈あまりのりえー見あつるるりある
岩はくろり岩よふまてとさけあつる瀧のまほけふおとらーさよ
あつりの木立のあつくおひーるるをとりくそいそん
うとれきなるめあり時うつるも信見居るれハすろさむれま信
おなえてそのま油羽ものへくささるりく

あつも又名ふをくれ文みの山瀧のくふさよ袖ぬ
らーはく

山娘乃くハすみく岩うねよあのみすれとわく
瀧は瀧瀧のりくろりよりいとけさき坂と二三町ろりのりふ
唐人もろりとふあつりくさよけさーやとれらくあつて々

月のひりりあつるれそろふむーこのあまて覺性法親王の
村の回ろり有明の月のおろさ文とふまえることあつるりく
おとひつそらまてあつまはり

みの山むーの光あもれえて山路ともあふ夕月の
かけまて瀧の水上ある山川よとひて山道と一里ろり
もゆけハ茶所有さふ及のらまとあつを様も川よとひて
ゆくこのあつろりそ川もやれそくあつぬその茶所ろり十町
あまろりあつて猪尾寺よる真面ろり五十町あつ入口ろりさ
くあつろりき所よ十三重の石の環あつる梶原景時く環くとい
へり護摩堂開山堂大師堂鐘樓あつるろりをあつ倍て

よき寺なり本堂ハこころ大きき堂なり本尊ハ観世音
なりそのありせり人々則西國三十三所のれ所へ本堂のまへ
彫りなきなり糸さくさく一布ありめくもそりてさくさく花ハ
さくさくあり花のさくさくのまへとゆへ

旅人のつそくんとひりりしてまきもつらぬくと
さくさくと本堂のさくさくはさくさく門をハ一町ありまゆきて
二階堂とつ堂ありこハ法然上人の所居ありとゆへ
このまへはさくさく所へ見わさくさくひろきさくさくを
めてさくさく見し文さくさく僧坊ありさくさくつらつて強勒
院とつ坊ありやとゆへ

十二日備坊の中とすさくさく仁王門ありそのまへ中山
寺ふゆくと京よゆくとありそのまへゆくとハたの
かたなまハこの道と半町ありさくさくゆくと道のさくさくふちひさ
さ石さくさくのありとわさくさくその石さくさくたの山一町
さくさくもつれはさくさくありさくさく又光明院ありその
まへハその石さくさくのまへもさくさく見さくさくハ東谷と
ゆへさくさくこの陵ありさくさくねてさくさくさくさくありあり
坊ありありねさくさくありありとさくさくひまひりり
老人のよくあり居さくさくわつてさくさくさくさく道のわくとさく
さくあり陵のまへハさくさく土とふありくつみあけて本立

一むら志けりたる中ふ十三重の塔あり又そのうきはふも石の
塔ひらつありむらひわらふ堀ありむらひの老人のへり
しり今ハその跡のありありと見えて又そのもの
さひしりありとあるとむらひのさまもこの天皇とむらひ
しりむらひしりありむらひの皇年代略記ふ康暦二年六月廿二日
勝尾寺の草庵ふ崩しむらひ見えむらひやうてむらひ所ふ
陵とつらりしりありむらひとむらひの陵のこゝを貝原のむらひ
有馬湯山道記り勝尾寺の僧の宅中ふありむらひしりむらひ
むらひむらひと考むらひ松下見林むらひ前王廟陵記ふ大坂の
奉行ありむらひ古屋何りむらひ人むらひの陵とむらひむらひ時

一山の僧もむらひとありむらひと二人の僧もその陵の石とむらひ
又してむらひ庵のうらむらひふその石とす急おむらひとむらひ
むらひとむらひとむらひとむらひとむらひとむらひとむらひと
のむらひも松下氏もありむらひ時代の人むらひ目原のむらひを
その僧の庵のうらむらひありむらひ時とありむらひむらひのあり
むらひむらひとむらひとむらひとむらひとむらひとむらひと
尋むらひしてむらひの記ふありむらひむらひとむらひのむらひとむらひ
むらひ今世ハす人むらひのむらひむらひむらひけて地理のこゝを
むらひものむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひむらひ
とむらひのむらひ時代ハむらひむらひむらひむらひむらひむらひ

こゝろをいふ人多くありこゝの陵のこゝのみよあつて
このをちのうれなる記行ふこゝのあらひおろくおのれ常よ
あふとみおのれこゝのあらひおろくおのれ常よ
石をいふ人多くありて坂路とくくの一町こゝ小石標あり坂路
をくくくくくく栗生村といふこゝこゝ小十四丁の石標あ
る石標のりきりこゝこゝこゝあつての山畑も梅おかくて
こゝりおろくそのおのれこゝはこゝりおろくおのれ常よ
こゝの實とくくくくくく馬梅といふ葉よなす梅といふ
馬梅といふのよあつて山梅といふはこゝりおろくおのれ常よ
といふりおろくおのれこゝはこゝりおろくおのれ常よ

よのちの梅よりハる月ひすくあつてやうよあつてこゝの馬
梅よりおろくおのれこゝはこゝりおろくおのれ常よ
らぬりの月りぬの梅ハ馬梅よりあると大坂よりこ
すくといふ百金あまりの價をあらくおのれ梅のおろく
こゝおのれひやあつてこゝのこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
みやひつるすちふあつてねとその梅のおろくおのれ常よ
かゝるこゝのこゝこゝ中村辻垣内村川井村なくおのれ常よ
すくこゝの三村も栗生の内なりとておのれ宿久荘の多
羽村といふよりこゝのち羽村よ或よ見えよ須久久林社
郷下 おろくおのれ勝尾より一里より郡山宿よいつ

西國街道より見ゆれば、この宿のすうまふ川ありて松とわ
ある。この川すちつれくさふりあり、のこくとめぐる宿川系
ありとて、これに須久とて、ふ名はとぬとて、うつひあぢうて宿とひ
あれる。このあへへ下井村とて、すま中川東村とて、よつる
名も、この川ありて、をすまて三町北のうま安威山陵とて、
小あまのうまよ、まきとあて、見えて木立、このうまと里人の
ひひつて、大織冠の古廟とて、ひて、多武路ありて、ありて
ある。このうま多武路の墓、延喜式に見え、このうま淡
海の墓なる。このうまひあま、大織冠の墓、このうまあり
まじと元亨釋書、小定慧、大織冠の骨を、このうまあり多

武峰より、つす、見え、これ、所子の所墓のあるゆり、つす、後、
このうまあり、所骨を、多武峰より、つせるあり、このうま、今の
ふ、所廟とて、ありて、ふあ、多武路の十三重の塔の下、之
う、つ、六十三重の塔の下、をさひ、このうま、元亨釈書に見え、これ
は、なり、これ、多武路の所廟と大織冠の所廟と、人乃
あ、あ、え、このうま、い、この安威村、このうま、
阿為神社、郡下、お、このうま、このうま、このうま、
このうま、て、え、ものを、文耳原十日市、このうま、
わ、このうま、大田村、このうま、このうま、このうま、
このうま、茶臼山、このうま、このうま、このうま、
三嶋藍野陵、
懸余玉徳宮
御宇 繼體

天皇在摂津
国嶋上郡

く凡んたる陵をいといと大きな山造あり上小本立一村
志くりてめくりの池もいといちくこはるもろさ塚これうま
凡ゆ池のころこふ八幡の神社おましまんそこの陵おま
おりやこの割れもあまうしぬまよいうあることふわんおわ
本立とまりてあまわるとふあうまうこふ杭のあうま
をおりくつみおまうまうまもあまうまうまを
うらまうまもあまありあまうまうまうまうま
ふる凡里人のまわさあまうまうまうまの八幡の神社
より一町よりゆまうま街道よりまうまの村と風村
といりこの風村といふの陵のあるあまうまうまの

みそそのあまのうまうまのやうまうまの世の常の人と孫の
まうまをいみきうまなれとまうまうまのうまおま
文風ハ守戸といひあまうまうまの陵守の子孫や
この陵ちうだあまうまの風村のわくあることまうまうまひて
古よのひまのめまうまの宮田村といまをま
あまうまの陵まうまのあまうまの古城の治とて
そまうまのひまのめまうまの陵と城まうまのあまうま
いこれらもそのあまひまのあまうまの相室村氷室村郡家
新町清福寺ふまうまの放川の宿まうまの郡ふま
二里なる人まうまの川てまうまのりまうまの川

をりうららるるもいとあさましくもその世の中をて城を
つくるふこころそそはけさうりうききすちもいそいそふ
つこの心たよものさひさるのよとらうらうのうりそたの
すさひよめくることしあはのいそんごれくあさましくそ
ろそそこころこころこころなすそや

十四日相國寺の号宿梅を見よものすこはむう一勅あれそ
いそもうこころこころこころみてもふもあめりこころ本の種あり
とそ木立はさしうりうらうも見え文をハうすられあめそハ
重なりやういそめさるるうらうそ盛ぶはまこころさやとこ
嘗乃むじう一の宿とあはぬまこころこころなすそや

うめりここのあはすかりら相國寺のうらぬま林光院とこふ
寺の庭のうらふあるありうら又このおり一庭のうらよ惺窩
といふ人の墓ありここの定家々のすあそそ漢字のことこり
いそとある人ぬりうり墓のさほハ四方ハ石もそあらくつみあ
ある一あハ柳のあそとあそいとらあくさつらうさあここの人
あそとあそとあそ人ぬまハかく柳を墓とらうこりてつく
りやうれこむ前ハ燈籠一基あり年ここの九月十二日を
忘日なりとそ冷泉家より序使ありとそ又江戸の林家
よりも祠堂てふりのつられうらとそや
かゝるのぬまみわそというこへよ久せし君うらとそ

となつひつそり後成の墓同女のはらちち一石の五輪をて左
のうと口をなり業仲明兆のそりちちいすあさるたのうわ
きあり明兆この南明院よすみ一信なきころふ墓ある
ものありこの後成の墓同女の墓ハゆきしもあしき
うらそそのさほも後人のつらうるものと見えんまことの
墓なることうひり

こころ急まて言葉の花の咲つて一ねさし一いあもちらせ
さうりりりりりり草の里ある昭宣公の所墓よまうて
瑞光寺よめくこいえ政上人のすみあるゆき寺のつらり
さまうとらうくくくくものつらうりささくちんの上人の

新もきりもをりくのうたれあさくおもひつて

すま傳やいとひり昔とあしきもいふあはれぶら
くこの里うけて伏見の梅谷よ入てそころと見あうさる
小月う濃の梅うりああねと程つとあわくささつさ
あさま世よあしひあわくぬあさうり

ふしみあころうり六月う濃の梅ああさくわれと
うらみせ

十六日智恩院よまうて志高あよつて長樂寺よまう
はらよ彼岸さくもまうさやくなまことふ天守あさ
うねまハ知人あわくそころりれう双林寺の西行庵よ

右のうらり俳舍利ハ左のうらり石の舞臺よのりりて六時
堂より入るふその所行振らうくハあるうらりてふてこの
かうめ傳うくあふくうらりてあうて石の舞臺よて舞樂ハ
しまれりこの舞樂を俗よれんハの舞とふハ俗人の舞と
ふこなるまゆあるうらりてあま石の舞臺ハ表の探干いとう
らうくくわうりて出すみふつらり花とあてうりその花ハあ
きうみりてつらりうらりてあハくく花と見申うくうらりてふ
るのうらりてつらりてあハくく花のゆめあハくみりて
あまのうらりてあまうらりてあまのうらりてあハく大鼓
つわりてハ大鼓と俗よりハ大鼓よて画よりうらりてあハく

まてみりてあまこののハくうらりてあハくうらりてあま
なりそのゆらりハ右方左方の樂屋ありその幕めく
舞人の二人舞うりてあまうらりてあまの舞とて
蕪利古と六人してあまのゆめあハくみりてあま
うらりてあまの中も大鼓の音より耳なれぬあハく
ことふみやひらりその舞とて所ハ水の式とふあまとてハ
六時堂のうらりてあハくうらりてあハく見え文所ハ楯所あハく
とてうらりてあハく見えうらりてあまの舞とてハ又舞樂ありて
舞樂とてハ又法事とつらりてあハく佛事ありて
くまうくハえのさくめんその法事の間に左右の樂屋よ

音楽あり中も供物の式行及法の式をくへんと何れよ
め信くく見も未の刻すくるれくうり法事いあくと舞のこ
つきくよありその舞の次方かきくろりのこの寺の何れよ
つてともくめくききうりくうりあるとくきく

舞樂次方

振鉦

蘓利古

迦陵頻

胡蝶

一曲

萬歲樂

延喜樂

桃李花

登天樂

安摩

散手

貴德

太平樂

拍鉦

蘓莫者

のくち松系として海をふちくしねの本立もふた似文いとも
ありしるきくくあり今在家村といふ井戸森の村といふ
おとくまは武も見えし^{大鳥}大鳥溪神社ありともやゆを
うみへのうさる松系の中より居ありて高石大明神といふ
額をかきしる武も見えし^{大鳥}高石神社ありともやゆを
の流とあふしるきくくもあわうりの流をのこさるへ

わさ波のありし流のそねき松うしぬをもうしあ
りくくや助松村といふとすき大庄の宿といふ課より三里
あり忠岡村破上村といふとすき本村といふといふこの
村のたのむよりぬる塚といひてふるさ塚のあるは何のつらや

野村といふとすき大庄より一里あまうりて崖和田の宿この
里小極の一本ささくともいふとく小初花うて

おもひりて文もさうけくさく花と見ふといふのわく
ふあぬハこの宿ハよき宿をそらのあふりしる岡形何く殿の
城ありこの宿よりすくくゆきて具塚の宿よりくるくハト
半といふ人のあるといふといと大きなる寺めさるる宅あり
うてこの宿のきのらもや何くくくゆりぬかよやとらぬ
廿四日朝といふ宿りといひて新町沢村依庄川村依野
市場村といふとすき蟻通村といふこの村より木ふさ
右林のあらはふ名ありき河社うてむく貫之のぬくの駒

のまはらよこらわつてひてゆりきりしうのりきりしあやも
わらぬとつらうとよみりる所社あり

駒形く傳玄の榮るくくとくまらぬありとくまらぬけ
うのまらもと池村安松村櫻井村ありとつとすき信達宿
ふつる貝塚より三里之牧野中村ありとつとすき山路
ありたのうえの川のをとりふ又もさぬ一本咲より

旅人のこころをさてもうのせとて山川ちりくさぬ
ありしを信達より一里すまで山中の宿あり十町あまり
ゆるハ塚橋とて山川よりくくくをわらと紀伊乃
さういありとつり池畑とつ材をすき雄山よりりて

坂とのあり峠よりよりすこくくありたるとあよ白鳥社
ありこの道より右のくくくのをとつとあつとくくありて
いとちひさき社なまてとつと名くく古物なり

梓らひさきとめりねてあつひり名のみにくゆ。白鳥
の宮山野寺村とつとをすき山口宿より山中より一里之
川鳩村とつとすきやゆるハ川のむくひは橋ありく見
ゆるとくありありハ丸畑とつと所まで安んぬる殿の別
業ありとつり紀の國ハ南のくくおのつとありてあり。
くあやわらんあまこの木立今をさうりと見えそ外よりくや
記の川とつり地蔵の辻とつと入りて中の嶋とつとあり

若山よ入るこゝの中の嶋よ 浄社のおそくまたハ式よ見えたる
志摩神社郡各章 有りうくて福町とふ町の若林を何うと
いふものありやうりぬ

廿五日日

廿六日雨

廿七日日

廿八日日

廿九日夕も日一このころ若山ハ花さうりあれハ志一
きなふ一より出そむねてわりのうらのめふりのすそのあま
りより船二艘をの一ていとねもあまのそあ一なり

先中橋とつより船よのりや、こゝまでつれハくこの船中ハ
よの嵐とつふ松あり

とちちえそよもの一ゆさるを船中よまうや獨
あけ一ひうして和哥の浦の味方の殿のり一ふ松とつそ
こより岸よわうりてその殿よのりてむらひを見わたすふ
記三井寺まちくく見えて極もいとあかく見ゆれとあわ一を
さうりすそそ青紫くちなり

ふく風のあくこの山もなまうせむさうハくやくはうり
すさうりそそ玉津瀧の神社よまうりてその所やうちの
右のくまほ一より二三町さうりも坂とのりく真徳山とつふ

のぼる山のうへいとひらくうちひらきそわきつらうりて
あるはこのとちよちうさねと小樽をつらうくともそのゆゑを
あつぬるよじうー聖武の帝の大所幸ありー時望海樓と
小樽をよめとちよつらうりぬる波あれはその汐をつらうて
てふしと樓をつらうありとーりくふ望梅樓のおとありと
つらふはともあつてそのみわてのあつてあつてあつて
めしむるうらうりてそまも初ものつらう

わきさ光の浦とみここのりありーのぶららのみ
わ

わきさ光の浦とみここのりありーのぶららのみ

のらら波くうらめは和哥のららとあつてのことふみあすは誤
らうらーのるかてか人のあまのぬりてうくするやとふあつ
いほらまはつと口をうてて飯をうらる紀三井寺あまゆく
しとこの雨りてえゆるまいそまおよのうて宿よく入りぬ
晦日天気よくぬりぬ日あ若少よとまり居るはさうら
うこことまてりてうらうみあつてふあねいといふも
あつてをうらふとちうらうよ足もいといふくすみうちや若山
をてらぬる八軒屋といふとすき田井の濃の飯をわらう南は
新村といふをすき川福村といふすきいゆとまもきくもた
てしうりたをてて根来のうらまゆんた中野村吉田村

なるといふとすれて西坂をとりまじりてこゝに根来のやうりま
岩手より根来よりふ大路へ岩手よりうらまふまふのた
なまじりてこゝに根来のやうりまじりてこゝに根来のやうりま
るなりその川福りの間ハ三里なま若山より根来ハ
四里ハすこしちうさうしりこゝの坂やまのたをこゝに
案内するをのこをさきふあやせすこしゆま右のこゝのふ
まこらあやしくさうり又すこしゆま下馬札あつそのやうりふ
池あつて大門池といふ道のこゝはふあは並木の橋あつてこ
も盛るやと池の堤より見あはるるこゝにさうりまじり
ふし天真橋といふこゝをわくまふその天を橋といふゆゑより

ありよる石ふみもあそりすこしゆまの洞佛の不動明王とい
しまは昔の女人堂の跡ありてそ女人も動とこりその
かよりふ下乗の札あつこゝのあそりもすて橋あり大心
の跡といふ石すゑある所とすこゝに大権現の寺社といふ
おろしまたこれまそのあひふ不信坊といふゆゑ経藏とす
き、岡山堂ありこゝに無教大師といへり九社の社といふあつ
そのかよりふ池あつてその中ふ龍王社おそしまたそのあつ
りふ聖天堂といふもいらたり護摩堂とすこゝに光明堂
といふあつこゝに大さある堂あつてちうさうああそり
と見えていとあそりこゝに凡そこの堂といふあそり法師の

像ありこの堂を再興す一人の像とそこのありおぼ
さくらおかくその中ふの赤さくら彼岸楊もまうりて盛
すさくらもわきとおわさくらりるを雲れこく古く名
ありさくらあられの吉物を見むとてまうりてさくらさくら
おわさくらもさくらおひさくらぬこくおまひいと興すこくま
こくふりの一つおわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
も花見よさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

久もへさ根らわすねよゆさくらわきもあゆを
る信そんを

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

よりさくら大塔の花の中より見えさくらさくら

外よ又うさくらあひひあらしさくら花のさくらさくら
らうさくらさくら無教大師廟大師堂とすさくら大塔のものとあさ
るこの天正の兵火もその災とのさくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら
一町さくらさくらさくらさくらさくら不動明王の所像のありさくら堂
あうつらうさくらさくら八角さくらさくらさくらさくらさくらさくら
香煙あうつら張さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら
こはさくらのみ不動とまうりてゆえさくらさくらさくらさくらさくら

くえて谷川と橋のうらむと紀伊大和の堺とくふ又すう
ゆんはま土峠をそ膏薬てありのうも家ありうましくちふ
いもさるまつち山とつひーいこの所のことなまこと今の大和の
國あり娘のふ國郡の堺のうらむもありふありひひく
おろくもいこれらもそのあつひるまーくふとよりくたつそ
うあつり

さくく花口山とまつちの山路の吉姓をさくくなま
つくくむとつちありやーお谷村上姓村とつとすく大飼
村とつふよつれい大飼寺とつちありさうせ村とつふい地紀
堂ありていと大きなり二見村とつとすく五条宿よりつり

その宿とすく山山村とつふよつれい或よ見えさる郡荒木神社
おろくもつち店のやうりふあつちさくあつちりさうく見ゆるさま大
のあふふその巻をり駒犬とあつちつとさるいといとさほついとさ
なふりくの法師なりせの神馬とつねるなふんかさるあさ
ふあふりて涙をもおつーつー橋本より三里とつり
三五宿とあつちりそのなつちひて宇姓村とつふよつれいなら
初巻のうらむゆく乃のちまさありこの村をすさて山路より
坂をのりて宇姓峠とつりささうりの坂なりぬくのありささ
ささあつちささささあふ金別山ちうく見えあふ大峰終如
く嶽あつちさひえさうり白根嶽も見えあふんゆくさうりさるい

更してを寫とありさるへんゆゑ一町又入てすこし石階
とのわりを心つとつふ高居をひかしてさふろくしもやうり
しふちや何し一の家ややうりをとりおぼえて先飛王堂ふ
まうてんと石の階をのぼり二王門を入本堂より川堂を
南じさうて金富山寺とふ額うまうりこのあうり又さうち
いとおぼくさうりへ實城寺もまうて天神の所社とふまう
つ三町さうりゆきさる名のあうりたのうまうり坂
をさうりて吉水院より川にさるのみ後醍醐の帝のうり
宮とせさせるへるとさうりてそのものつらうりこのおぼく
ふろく見えてあてさふこと又後醍醐の帝の肖像と後村上

天皇のまうりせり入りとふもこの寺ふおぼくまたを見せりて
いとおぼくおぼくうりこころと

よりあのおぼくこのまを一のうりてまうり袖と川の
ぬりか、この寺も極おぼく盛なりつのおぼくうり
ものうりてひらうりさうりふひひてひらひの山と見るふ如意
輪寺又この寺の山のふもとふひまおぼく見ゆさるのうり
さうりてそのみりし一いんさうり昔後醍醐の帝乃
おぼくもさる井のさうり境おぼくさるの雲井極と
おぼくの中よあうりといへるなりうり又もひらうりあうり
おぼくい伝うりて

花見ても心の静けさ
おしん

おしんは侍を舟のさかき
なりせば

みりし花をさかき
ありしを勝子
ほししの所社
琴ひるせむひ
皇居の政と
よゆきてつこ

つこゆまう
しんを船
あつての
もつあひ
らんく
をりあ
うさ
すくさ
所社
あうく

久の後醍醐の帝の行皇后の行靈とありありといふ
くはむ松坂とのりて最遠の親善兩陣の神社あり
もおくしうす後醍醐天皇の行といひの笠やうすあり
くしう坂を五六所よりありて茶屋ありそのくはむ
いと大きな系まののあまを遊橋といふしうすあり
さうしうかかふありやとさうすありありありあり
橋いといふありありありありありありありありあり
ありありありありありありありありありありありあり
竹林院よりみしうい今一きはひありありありありあり
しうすありありありありありありありありありありあり

久の傳聖のこころよきありあり

そよよの。薬もつと傳し一姓のさあるとりよきあり
くしうありありありありありありありありありありあり
水合神社なり世も寺といふありありありありありあり
くしう天王橋といふありありありありありありありあり
お入ていしうありありありありありありありありあり
久よつこの泥川といふありありありありありありありあり
くを南院谷といひて辻堂のあり中又地蔵のありありあり
ありありありありありありありありありありありありあり
てありありありありありありありありありありありあり

りまうけさる 町の墓ありたりなり 其もこの墓のことをを
とりの墓もあつねされとる人ありてとて 茶師堂の
やとりををれとのこととてふふつとる 業内者ハ南
朝よつ久きものありとの墓ありてこの墓ありてこの
四月十九日を忌日とてその墓ありてこの墓ありてこの
なれはとてとてありてとてとてとてとてとてとてとて
よきとるありてその墓ありて堂あり山川よそひて三三町
ゆきてすこののありとるともあり又またの山のうへは
なまことちを半町とるありとるともありて村上義光
墓とるありとるありとるありとるありとるありとるありとる

枝のうれあるありとのありてあり 傍の昔をこのひて

あつひありていさなりとるありてありのよきひの袖のありき
ありありとのありて吉野ありとてありとてありとてありとて
ありありありとてありとてありとてありとてありとてありとて

あつねありていさなりとるありてありとてありとてありとてありとて
のありとてこのひは堂のほりありとてありとてありとてありとて
のありとてこのひは堂のほりありとてありとてありとてありとて
帝の皇居のありとてありとてありとてありとてありとてありとて
かりとてありとてありとてありとてありとてありとてありとてありとて
この家のありとてありとてありとてありとてありとてありとてありとて

くとうやこの名もむう南朝の人のすみしうりつるよやく
いとあつしき名ありたりこいやくそ播磨の宮のわたりて
れとねく町おいつうて日もくれりるるちひ宿よ久り
てやくりさ播磨り今はんのころふたわしあるよこ谷よりけ
ある播磨まむひの山ちうく思えて谷まよとちり梅
のおりくささうり又ありりさ思ひのあり

この歌よやくりすもさうの山こまひ花よあす
とやいむむさそふおりちさうふんうりてあむむい
まのなうりしのおねく文と花かと思ふをりおうちあん
しむさうんもあうりのせさうわさなれいさうし

あひめくせいのやまのういむうり花まのさあ
おひひらうしむひわうりてむおおおそあむまい
らうさふあうしと誰人うこれいさうり花のよの
といあうり十七文字よてよこ山のまをひり
くせものなるおとさうさ平のまいさうりて
くんぶくおひなさうをふひりて人わさむらあ
二日く吉野をさうんとすのまう人のいとさうあ
かきよのりてお王権現の花うこといひてうまをのま

ともありへきりその天都の所社のわたりお高祥神社とまうた
もあせりその天都の所社いやくて龍門の龍はゆくたう
てたし之の右ハ鳥居のわたりうそてり所社うたをた
ふゆきてすこし家のあるところをまきて山川をそひて八町
たりりゆきすこし坂ありてそこふ利龍ありこみ龍を
世ふ名あうくまうしういといふき龍なむいとおひいふ
まはりの龍あう文して文もあうら文あうりの本立のもの
ふうら文あておひいふあうらうらすこいらの
月とゆるむりの龍のまうのうはうもそとるまや
むしうり世ふあえし龍のつこすうふ龍のまや

のこりりこの回のたふあやしと石のあやりわうおひてし
梵字と下乗といふ文字をとりつたのつらふいえ弘三年
外月とあり右ハ龍門寺とありこふよよりて考まき
そのうみ龍門寺といふ寺このあうりの山はありうらあ
へしその寺を後醍醐帝の皇居とせせぬへりり里人の
いひつゝあうのつりあむりこの鳥居のわたりうそてり
街屋よいて香束柳村をくふをすきてみつ茶屋といふ
入てものあうふ名村といふとすき西岸といふ山とこえ龍
家宿よいて上市より四里なりうそてあひみくありた
はうねて上市よりのりうかふ傍の西をめぐりあれてい

おらうる岩うねまうく大い一の名をひくす。山乃
あまはぬほうろく岩といふ岩はたのやうりあわつてい
んわをらうるまあめいしき岩のまあり小片をとすさて
山田のうふゆくたのちまこありそのちまこよりたなわは
きはみ峠といふところもこいさはうりあまき山よあま上葉系
田六呂木は系をすき大河内ふりて昔茶を
いふやすむい家の門は人のおくつとくを何あん
とおもひて見まこいもいあまを精をうらるをい
と大きなりとて見るなりうりわきも見るふとのまとい夫
さねるかみそくとつひて猪みてい大きねるうきりくとを

この茶をよりあまゆけい大河内の城とつら川のむい
小見をよりそのまい山のういこらうらひあるとあり
ありてそふ八幡の所社ありまた木立るとりのあり
ありこい北島の君の所代さうんなうり大河内所
とまうして所所のありいおのくとり組もあ君よ
つうへありいゆりあまいといとうねいとおねんて
あまよりありあまをむいへありいふ所い木立のこ
うくのみにて

國ひろくさうろいものをあまけなるとて織田す
きういさむすいゆて山村よつるこいあのみあり

人の父の遠津祖のこれもお島家のなまき形なる後おすみ
より形なりとハそのことありひつてられて

つへへへ昔うらりをよきうまて志ぬらうのふ山村
のさく桂津村も城山といふあふいあうすみ海泊さん
丹生寺をすき立陸よつるこの村の山のふ人よ武よんえ
ある立陸神社ありうすうして田村新田村ありとす
きられするやと家おひよりつさぬうねておひひ所と
見りりてつづぬく入りつさるることとらぬもれ
まことやとひひ

月う瀬のうめのま付ひよふきてこつてそつておひの花

とく先の袖

ふ何か人ハゆさ見よ世の中乃まふうらう種樹ハ
月う瀬とおひふを人も忘れんとて居てまふてふ
書つてぬ中おひ見あやまりはあがへるこもおひう家
へくふと梅橋の日記とくも名つて海ありありの
やうふつとふなまきと言葉の花のうくこつてうらぬお乃
日記おひいと似つてうらぬ名ありや

天保四年とふとこれやうや

小澤久足

梅梅日記一卷吾友伊勢松坂人氏小津桂窓
紀行也脫其稿日速郵附以示於余見問可否
焉桂窓與余同好其才亦如此即便使筆工謄
寫畢時

天保四年癸巳歲杪念一 著作堂老翁

